

依佐美送信所

～世界最大出力の送信設備～

2007年、刈谷市が公園緑化計画で整備した公園「フローラルガーデンよさみ」の地は、1929(昭和4)年に欧州との無線通信を開始した依佐美送信所があったところである。

大正末期、日本はまだ自前の無線通信施設がなく、外交・通商上の権益確保のために無線通信施設の建設が急務となっていた。1925年国策会社、日本無線電信(株)が設立、同社は当時の碧海郡依佐美村(現刈谷市高須町)に送信所、受信所は三重県三重郡海蔵村(現四日市市)に建設することを決めた。

依佐美送信所は、大電力の長波送信所として設計され、送信設備はドイツのテレフンケン社とAEG社製、送信周波数は17442ヘルツの超長波であった。送信所は1929年に完成、同年4月から欧州への送信を開始、第二次大戦中は日本海軍の施設として、戦後は米軍の通信施設として使われたが1993年に業務を停止し、翌年に米軍から日本に返還された。公園整備とともに送信所は解体されたが、長波送信設備一式は依佐美送信所記念館に保存された。



鳥瞰図「愛知県」(部分)に描かれた依佐美送信所



依佐美送信所局舎

(出典：日本無線電信株式会社の絵葉書)



依佐美送信所の8基の鉄塔

(出典：日本無線電信株式会社の絵葉書)



建設中の依佐美送信所発電機室

(出典：日本無線電信株式会社の絵葉書、石田蔵)